

良い学級づくりは 最初の1週間で ～実力派教師の5つの ステップ～

1. 授業の仕組みづくり
1週間の5つのステップ
2. 良い学級の仕組みづくり
5つのステップ
3. クラスの荒れを防ぐ
学習のしつけ
5つのステップ
4. 発達障害の子が熱中する
学級イベント
5つのステップ
5. 後々楽する学級事務処理
のシステムづくり



イラスト：井手本美紀

1 向山氏の造語「黄金の三日間」

黄金の三日間

「黄金の三日間」はT.O.S.S代表向山洋一氏の造語ですが、既に一般名詞化しているようです。

中には「ダイヤモンドウィーク」などの言葉を書籍に書き、「私が考案した言葉です」と堂々と述べておられる方もいるようです。

向山氏が「黄金の三日間」の概念を最初に提起したからこそ、こうしたいわば「亜流」が発生するのです。

一般名詞化しているといえ、次の文章を読んでみて下さい。

4月の始業式からの3日間は、「黄金の3日間」と言われます。それは、3日間で教師の意図する学習や生活のルールができあがるからです。夏休み明けの9月1日からの3日間は、教師が意識することによって、再び

たちを「型にはめる」ことを若い先生方に教えているなら、それは本来の黄金の三日間の趣旨ではありません。

2 知的で躍動的なクラスづくりへの布石を

担任の教師と子供たちが出会った最初の三日間は、やんちゃな子供たちも先生の様子をうかがっている時期です。

- ①「楽しくて熱中するような授業」を展開してくれる先生
- ②ルールの決め方をはっきりと分かりやすく示してくれる先生
- ③明るくて、たくさんたくさん、褒めてくれる先生
- ④いろんなことに、次々に挑戦させてくれる先生……

三日間でこんな先生だということが分かる、子供たちは一年間の学校生活に明るい希望を持つことができます。

意欲も高まります。

明確な仕組みやルールをつくりながら

も、知的で躍動的なクラスづくりへの布石を、実力のある先生方は三日間で次々に打っているのです。

- 1 知的で熱中する授業のしくみをどうつくるか。
- 2 子供たちが自分からどんどん動いていく当番や係活動をどうつくるか。
- 3 荒れのサインを読み取り、学習をしつとりと安定させていくにはどうしたらいいのか。
- 4 発達障害の子が活躍する学級イベントをどのように仕掛けていくのか。
- 5 能率的かつ効果的な学級事務処理の方法とは。

こうしたことについて、全国の実力派の先生方に具体的なステップを教えてください。ただ今が本号の特集です。

先生方の一年間の学級づくりのお役に立つことを確信しています。

(本誌編集長 谷和樹)

これはある市の「市立教育センター」の「所報」に掲載されていた文です。指導主事の間でも「黄金の三日間」が定着しているようですね。

学校の校内研修でも「黄金の三日間による学級びらき」が取り上げられている例があります。

全国でこうした研修がなされていることはすばらしいことだし、とても重要なことだと思います。

ただし、その実際の研修内容はもっと重要です。

単に三日間で「形式」をつくって子供

生命線は、ノート指導である

最初の1週間は、毎年ノート指導で格闘する。ここに精を出すか否かで1年間の算数授業が規定される。何度も教え、やらせて、確認して、褒めることを繰り返す必要がある。

石川県かほく市立宇ノ気小学校
いし ざか あきら
石坂 陽

1
授業の仕組み
づくり1週間の
5つのステップ
〈算数編〉

漢字指導・音読指導・ 発表指導・ノート指導 4つの指導で仕組みを作る

子供の力を把握し、ポイントを教え、たくさん読ませ、たくさん発表させ、たくさん書かせることに力を注ぐ。

広島県東広島市立寺西小学校
かき い み か
笠井 美香

1
授業の仕組み
づくり1週間の
5つのステップ
〈国語編〉

- 仕組みづくりの五つのステップ
- 1 漢字テストで、子供の力を把握する
 - 2 漢字指導で、覚え方のポイントを教える
 - 3 音読指導で、たくさん読ませる
 - 4 発表指導で、討論の授業につなげる
 - 5 ノート指導で、文をたくさん書かせる

1 漢字テストで、子供の力を把握する

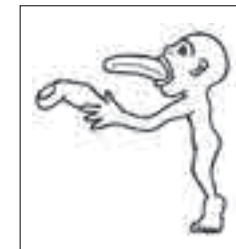
昨年度までの力がどれだけ付いているか、初日に漢字の五十問テストを行う。前学年で身に付いた子供の力（実態）から指導法を考える。

2 漢字指導で、ポイントを教える

新出漢字を覚える手順は、次のとおりである。

- 一 ゆび書き
- 二 なぞり書き
- 三 写し書き

ゆび書きをなぜするのか
説明し、ゆび書きのポイント（机を広く開ける、鉛筆を持たない、爪が白くなるまで机に指をこすり付けて



※

行う）を教える。さらには、「覚えたら机にその字の残像が見えること」「指と口が大切なこと」を「ホームクルスの絵」（下図）を見せながら説

明し、「ゆび書きを大切にすること」「ゆび書きをしながら書き順を言うこと」を押さえさせる。

3 音読指導で、たくさん読ませる

教科書の音読を行う。まずは、先生の後について読む「追い読み」。交互に読んでいく「一文交代読み」、読みたい行を立って読む「たけのこ読み」などの読み方を教える。その際、題名の横に○を十個書かせ、一回読むたびに赤鉛筆で○を一個塗らせる。さらには、最初の一文だけを「覚えなさい」と暗唱させたり、黒板に書いた名文・名詩を少しずつ消していき全文を覚えさせたりする。

4 発表指導で、討論の授業につなげる

「自分が調べたことをノートに書き、それを読むこと」から、「一つの意見に対して、賛成か反対か答え『僕は、賛成です。理由は～です』と話型を教えてそのとおりに言うこと」へレベルアップ、「指名されて発表すること」から、「指名なしで発表すること」へとレベルアップしていく。

5 ノート指導で、文をたくさん書かせる

ノートに文をたくさん書かせる。児童が書きやすい文章を何度も書かせる。「主語と述語が対応していること」「文末をそろえること」などを意識付ける。ノートに書いた文を黒板に書かせ、教師が評定する。

算数の最初の一週間において、重要なこと。それは、これに尽きる。

ノート指導

ノート指導が入れば、その一年間の算数授業は安定する。逆にノート指導が入っていないければ、骨抜き状態となってしまう。

ノート指導には、ポイントがある。そのポイントを最初の一週間で身に付けさせていく。

第一のポイント

「日付とページ数を書くこと」

これは、授業開始までに書くように指導するとよい。

第二のポイント

「マス一杯に、濃く・大きく・丁寧に書くこと」小さい字や、薄い字では、ミスを誘発してしまう。教師が範を示し、良いイメージを持たせるのである。

第三のポイント

「問題と問題の間をゆったりと空けて書くこと」これは、二行以上が望ましい。私は、四月当初は、「二行空け」と唱えさせて定着させる。

第四のポイント

「線は定規を使って引くこと」

東京教育技術研究所から販売されている10cmのミニ定規を使用すると、効果は倍増する。

第五のポイント

「間違えた問題は、消しゴムで消さずに、赤で直しをすること」

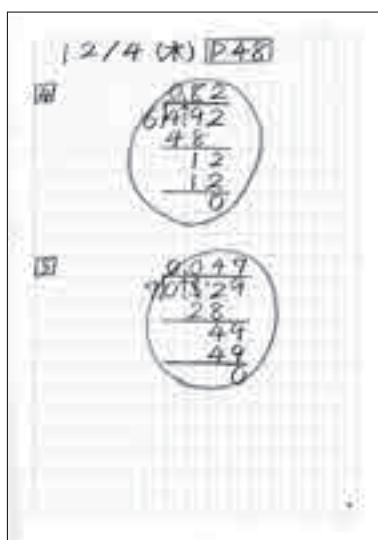
これは非常に難しい。子供は消しゴムで間違いをどうしても消したがる。趣意説明を何度もし、定着させる必要がある。

ここで大切なことがある。

何度も教え、やらせ、確認し、褒めること。

一度や二度では決してできるようにならない。繰り返し、繰り返し取り組ませるしかない。

一年間の算数授業の安定は、最初の一週間のノート指導に規定される。



1年間で スムーズに進めるための 5つのステップ

最初の日の仕組みづくりが1年を決める。
自ら声を出し、指示に反応することを教える。

愛知県豊田市立東保見小学校

井戸 砂織

1
授業の仕組み
づくり1週間の
5つのステップ
〈英会話編〉

年間を通した授業の方針と 具体的な動き方を 楽しい授業の中で指導する

- ①体育授業のルールを身に付ける。
- ②「できる」を保障する。
- ③仲間と協力する楽しさを体感する。

神奈川県相模原市立作の口小学校

鈴木 恭子

1
授業の仕組み
づくり1週間の
5つのステップ
〈体育編〉



論より証拠。体育の楽しさを経験して、体育のルールを身に付ける一週間とする。

①十分な運動量の確保、②成功体験、③仲間との協力、④安全の確保の4つで授業を組み立てる。

1 身支度

①着替え……低学年なら脱ぐ順序。また、短時間に準備することも指導。着替えが体育の活動時間に大きく影響することを伝えたい。

2 体育の授業の目的の語り

体育の授業の目的を語る。体育は得意な子だけのものではなく、誰にでもチャンスがあり楽しいことを知らせる。

①丈夫な体をつくる……足が速いだけでは体育が得意とはいえない。けがや病気をしないことも大事。

②友達と仲良く運動する……友達と協力すること、で技が上達したり、より楽しくなったりする。

③技能を高める……できないことに挑戦する。できるようになるために工夫したり努力したりすることを学ぶ。

3 集合・整列

集合の型を教え、集合の仕方を教える。教師の位置を変えて集合の練習。タイムを計り、

あおる。何度もゲーム感覚で繰り返す。

①集合の仕方

(円…先生中心の半円)(グループごとに)

②整列

(背の順一列)(背の順二列)(背の順四列)

③体育座り

④体育グループ

年間を通じた体育のグループを作る(名前順でいい)。能力差は、教師がハンデをつけて対応する。

4 見学者への指示

見学者の服装・見学者の話の聞く位置・見学者の学びの発表・記録。

5 熱中する楽しい授業

例・リズム太鼓を使った体ほぐし運動

・変化のある繰り返しで鬼ごっこ(五種以上)

・なべなべそこぬけ二人↓四人↓八人……

・学級全員で輪になり、くぐり抜け

・跳び箱を全員跳ばせる

全員ができて、たくさん褒められ、達成感のある授業を展開する。

一週間のうちに、指示した行動をチェックして褒めることが大事。また、動きのぎこちない児童を見取りたい(スキップ・ケンパー等)。

一年間をスムーズに進めるために、最初の授業で教えたことがある。段階別に紹介する。

ステップ1 座る位置を教える

外国語活動では、机と椅子がない状態で授業をすることがベストである。活動がスムーズである。

子供たちの座る位置は、机があるときと同じ並び順と最初に決めておく。どこに座って良いか分からないのでは、発達障害の子供は安定しない。

ステップ2 声を出すことを教える

私は、最初の授業では、単語のフラッシュカードかHelloの挨拶から入ることが多い。

単語のフラッシュカードでは、教師が犬のカードを見せ、「dog」と言え、子供にも「dog」と言わせる。どんなに小さくても、声を出したら、「Very good!」とびっくりの笑顔で、驚いて褒める。

T.O.S.S型英会話指導の理論提唱者である向山浩子氏は、「英語を発したのだから、どんなに褒めても褒めすぎることはない」と言う。

ステップ3 簡単な指示にすぐ反応することを教える

「Stand up!」へ指示し、教師自身が立ってみせる。

同じように立った子を褒めることで、立つことを理解させる。座るときは、「Sit down!」手を挙げるときは、「Raise your hand!」指示をしながら教師がやって見せ、できた子を褒め、何をすれば良いかを分からせる。

ステップ4 英会話授業で何が大切かを教える

私が毎年教えていることがある。

①間違ってもよいから大きな声を出す。

②手を挙げて人より多く英語を話す。

③ALTや先生、友達の英語をよく聞くこと。

教えることで、子供たちは何を頑張れば良いかが分かり、安心する。目標を持つことができる。ほかに「笑顔」や「アイコンタクト」も機会を見つけて教える。

ステップ5 たくさんの人と話すことを教える

いつも同じ人とペアになって話すのではなく、たくさんの人と話すことを教える。「男子は女子と(逆も)」「いつも余り話さない人と」「ALTや先生と」など。教師がそれを伝えることで、子供たちは、遠慮なく(?)男子は女子と、女子は男子と話すことができ、会話することの楽しさをより感じるができる。



デジタル版 DIGITAL
カラー画像を見ることができます!



学級の仕事を 具体的に列挙して行う 当番活動

一人一役の当番活動で、
学級生活がスムーズに動くシステムを4月に構築する。

東京都目黒区立鷹番小学校
とむら たか ゆき
戸村 隆之

2
良い学級の
仕組みづくり
5つのステップ

朝の会 帰りの会 短ければ短いほど良い

挨拶は徹底させる。この1点は譲らない。
あとは楽しい時間になるように工夫する。

山口県下関市立川棚小学校
はやし たけ ひろ
林 健広

2
良い学級の
仕組みづくり
5つのステップ

1 基本編 とにかく時間を短くする

朝の会、帰りの会は短ければ短いほど良い。
長くても、五分。メニューは、どんなものでも
よい。担任が大事だなど思うことを入れればよい。
私の場合、朝の会は①健康観察②先生の話、帰
りの会は話さない。大事なことは、メニューではな
く、時間だ。

毎年、やんちゃ君から言われる。「林先生、う
れしいです。帰りの会が短いから。前の先生は、
長くて、いつも説教が始まるんです」長い帰
りの会は、恨みにつながる。子供たちの大事な放課
後を奪っているから。

ただし、一点だけ譲ってはならないことがある。

挨拶を徹底すること

日直が「起立」と言う。だから立つ子がいる。
ポケットに手を入れている子がいる。横を向いて
いる子がいる。毅然^{きぜん}と言う。「やり直しです。横
を向いている人がいます」と。短く趣意説明も入
れて、やり直しをさせる。「まあ、いいかあ」で
はいけない。勝負どころだ。挨拶ぐらいちゃんと
させなくてはいいけないのだ。

「向山洋一デジタルアーカイブ2 社会科授業の

当番活動は、

学級生活に必要な毎日行う仕事

である。

子供たちが進んで当番活動をするためには、い
つ何をするのか具体的に示し、役割分担すること
が必要である。

ステップ1 必要な仕事を列挙する

仕事内容は、学校の実態によって異なる。どの
学校でも必要なのは、黒板消し、手紙配りなどの
当番である。

まずは、教師が自分の学級でどのような仕事か
あるのか列挙することが必要になる。私の学級で
は「窓開け」から始まり「給食配膳台の準備」「専
科授業の連絡」「健康観察表を保健室から教室に
持って来る」など、毎日の学校生活に必要な当番
を設けている。

ステップ2 当番は一人一役

当番は、一人一役割り当てる。一人一役だから
こそ、自分の仕事が明確になる。その仕事がされ
ていなければ、その当番の責任になる。例えば、
黒板消し当番を五人で割り当てた場合、やる子と
やらない子が出てしまう。それを避けるために、

方法」(東京教育技術
研究所)に、向山学級
の帰りの会がある。向
山氏は、挨拶の途中で

「ちょっと待ってなさい」
と言う。挨拶をやり直
しさせている。なぜ



か? 手袋を付けて挨拶している子がいたからだ。
「手袋を取りなさい」と指示した。挨拶を、もう
一度やり直しさせている。ほかの資料(「向山洋
一算数の授業CD2・下校指導」東京教育技術研
究所/完売)でも、挨拶を何度もやり直させた。
挨拶は、譲ってはならないのだ。厳しくいって、
ちょうど良い。

2 応用編 教師が楽しい話をする

朝の会で、教師の話をよくする。子供たちは楽
しいようで、よく聞いている。家族の話、旅行の
話、貧乏だった学生時代の話、読んだ本の話など。
お勧めは、「古事記」。国産み、天岩戸、ヤマタ
ノオロチ、因幡の白兔^{いなば}、海幸彦と山幸彦。時間
は短くて、面白い話がたくさんある。教師が笑顔
で楽しそうに話す。「日本つてすごい」と子供た
ちが言う。授業は楽しく、朝の会も楽しくだ。

「二時間目の黒板」と具体的に示して、一人一役に
する。

ステップ3 当番を決める

当番を決めるときには、当番の一覧表を印刷し
子供に配付する。次のルールで当番を決めていく。

①立候補は一回。

②希望が重なった場合はじゃんけん。

③じゃんけんに負けた場合は一通り回ったら再度
立候補できる。

ポイントは、③である。負けた子がすぐに次の
希望に立候補すると不公平になる。希望を一巡り
聞いた後に、二回目の立候補を認めていく。

ステップ4 当番の仕事を教える

当番決めのときに当番の仕事を簡単に説明する
が、更に具体的に教える必要がある。例えば、黒
板の消し方。正しい消し方を教師が実演して教え
る。教えて仕事ができていけば褒める。こうやっ
て一つ一つの仕事を教えていく。これをしっかりと
しておくと子供が進んで仕事をするようになる。

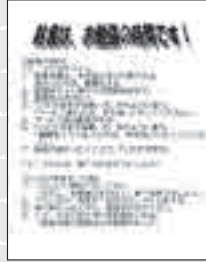
ステップ5 活動の評価

当番活動をしっかり行っているか教師がチェッ
クをする。余り詰める必要はない。しっかりとっ
ている子を褒めて、全体に波及させていく。

いつ誰が何を行うのかを 明確にする

給食や掃除から荒れてしまう学級もある。
「いつ誰が何をするのか」を
春休みのうちに準備して
本番に臨もう。

東京都品川区立城南小学校
やま だ ひとし
山田 仁



2
良い学級の
仕組みづくり
5つのステップ

給食や掃除は、学級が荒れるきっかけにもなる時間である。子供たちが遊んでいた、やるべきことをしていなかったりする光景を見たことがある。どうしてこうなるのか。

いつ誰が何をするのかが明確になっていないからである。

教師が、年度当初に子供たちの動きをイメージし、流れを把握しておくことが重要である。今回は、給食指導を例に挙げるが、これは掃除指導でも応用が利く。

1 時系列で給食の流れを書き出しておく
春休みのうちに、ノートに給食の流れを書き出す。勤務校では、四時間目が終了するのが十二時二十分。給食終了が十三時である。そこから、給食当番（五人）・配膳台セット・配膳台拭き・サービス（十人）・読書（十三人）がどのように動くのかを詳細に書いておいた。また、何時に「いただきます」をするのか、何時に「ごちそうさま」をするのかも書いた。

そうすることで教師が子供たちの動きを把握しやすくなった。

2 細かなルールを明記する

いつ誰が何をするのかを明確にする

給食の流れができたなら、細かなルールまで決めておく。例えば、「一番の白衣の子は何を担当するか？」などである。私は、QA形式でノートに書くようにしている。

3 これまでのルールを確認する
新学期が始まり、必ず子供たちに聞く。「これまででは、どのようにしていましたか」その上で、「今年はこれでいく」とルールを伝えるようにしている。そして、どのように動くのか、給食前に「エア給食」をして本番に備える。子供たちから細かな質問が出て、必ず全員が聞いている状態で答えるようにしている。

4 趣意説明をする
子供たちに趣意説明をする。「給食の時間は遊びの時間ではありません。お勉強です。みんなで協力して準備や片付けを時間内ですること。楽しく食べること。これも大事な勉強なんです」

教師が子供たちと一緒に動くことも重要だ。ルールを守っている子を褒めることができる。

5 新しいルールを掲示する
「この時間までに～をする」ということはプリントにして配付しておく。いつでも基本に立ち返れるよう、教室にも掲示しておく。

係活動は 「所時物の原則」で貫く

係活動で子供たちの文化的活動を保障する。
活動の時間や場所を確保して、推進させる。

東京都目黒区立鷹番小学校
く の あゆむ
久野 歩

2
良い学級の
仕組みづくり
5つのステップ

ステップ4

「物を用意する」



係活動に必要な文房具は十分に用意する。また、裏紙やポスター用の画用紙なども常備しておくと便利である。

ステップ2

「活動場所を与える」



教室の横の黒板を係活動の掲示スペースとして子供たちに提供している。子供たちに人気のコーナーとなる。

1 係活動の開始時期

係活動は、日直・当番活動が機能し、学級が落ち着いてから行う。こうすることで、子供たちが安定し、活動がより活発になる。

2 係活動が停滞したら

ステップ1～ステップ5が機能しているかを教師も子供もチェックする。

ステップ5

「活動を評価する」

- ①ステップ1で示したルールに基づいて活動している子供たちや活動が盛んなグループを称賛する。
- ②活動していないグループには「いつまでに何をするのか」を発表させる。決して詰めすぎないようにするのがポイントだ。

ステップ3

「時間を確保する」

- ①学級活動の最初の10分。
 - ②給食・掃除が早く終了し、余った時間。
 - ③雨の日の休み時間。
 - ④登校後、放課後など。
- 高学年になると係活動の時間が特になくなる。「時間の確保」は、停滞の主たる原因となりやすいので注意する。

ステップ1

「ルールを決める」



(係活動の約束を示す。)



よりすぐりの 向山型学習ルールを咀嚼せよ

黄金の三日間で押さえておきたい学習ルールは
書籍と音声の二刀流で学べ！
向山氏の書籍で学ぶべきことと音声でなければ
学べないことがある。

元東京都立小学校教諭
TOSS東京教え方研究会
もん ま まさ ひろ
門間 政博

3

クラスの荒れを
防ぐ
学習のしつけ
5つのステップ

鉛筆と赤鉛筆を使わせる

予告をし、趣意説明をし、確認をし、
アドバルーンを潰すことで学習のルールを徹底する。
貸出し用も用意しておく。

石川県金沢市立西南部小学校
いわ た し ろ う
岩田 史朗

3

クラスの荒れを
防ぐ
学習のしつけ
5つのステップ

学習のルールの中で、極めて重要なことは、これである。

鉛筆と赤鉛筆を使わせること

最初にこのことをしつけておかなければ、取り返しがつかないことになる。取り返しのつかないことは、これである。

筆箱の中が、シャープペンシルとカラーペンで一杯になる。

こうなったら、もう学習どころではない。教室は、派手なシャープペンシルとカラーペンを自慢する子供たちの姿で一杯になる。そこで、初日から、鉛筆と赤鉛筆を使うよう、しつけなければならない。しつけは、次のように行う。

ステップ1 予告をする

初日に、筆箱の中身を指定する。「鉛筆五本」「赤鉛筆一本」のように、である。連絡帳に、書かせる。学級通信に示しておき、配付してもよい。

ステップ2 趣意説明をする

なぜ鉛筆と赤鉛筆なのかを説明する。子供たちが納得させることが、大切である。鉛筆であるな

ら、鉛筆でしっかりと力を入れて書くことで脳に刺激が伝わり賢くなること、シャープペンシルは力を入れると芯が折れること、赤鉛筆であるなら、薄く色を塗ることができること、カラーペンはノートの裏に色が写りノートが汚くなることを話すとよい。

ステップ3 確認する

二日目に、筆箱の中身をチェックする。机の上に筆箱の中身を全て出させ、隣同士でチェックさせればよい。このとき、鉛筆と赤鉛筆が用意されていないければ、再度連絡帳に書かせる。

ステップ4 アドバルーンを潰す

もし、授業中にシャープペンシルやカラーペンを使った子供がいた場合は、必ず使うことをやめさせる。ここは、闘いである。妥協すれば、一気に崩れる。「家がない」などと言ったら、お家の人に連絡して用意してもらおう、くらい言ってもよい。

ステップ5 貸出し用鉛筆と赤鉛筆を用意する

教室には、貸出し用の鉛筆と赤鉛筆を用意しておく。忘れた子には、笑顔で貸し出せばよい。返すときには、芯を研ぎ、「ありがとうございます」と言わせれば、礼儀の指導にもなる。

黄金の三日間で一年間を貫く学習ルールを教えるのが最も効果的である。子供たちが新しい学年になりやる気に満ちているからである。そこで、どうしても押さえておきたい向山型学習ルールを抽出した。

1 向山洋一全集第四巻で学ぶ向山型学習ルール※1

① ノートに日付、ページ数を書く。

いつ学習した部分か、教科書のどこを学習したのかを明確にさせるためである。

その際、書く場所の指導も必要である。

② 鉛筆、赤鉛筆を使う。

シャープペンではなく必ず鉛筆を使わせる。その際、ペンフィードの図※2などを活用し、脳にしっかりと刺激を送るために、鉛筆を使うという趣意説明をすることが大切である。

同様に赤ボールペンではなく赤鉛筆を使わせる。赤鉛筆は丸を付けるだけではなく、色を塗らせる時に濃淡を付けることもできるからである。

③ ノートはゆったり丁寧に書く。

ノート指導で「ゆったり丁寧に書きなさい」と言っても通じない。子供によってイメージが違うからだ。具体的にイメージしやすい言葉で指導することが大切である。算数であれば、「横に並ん

だ問題と問題の間は指二本分、上と下は二行分開けます」などの指導である。また、「ゆったり間を空けて書く」とノートも見やすく計算間違いも減るから、お勉強ができるようになる」と趣意説明をすることも大切である。

④ 線を引くときはミニ定規を使う。

丁寧に書くだけではなく学力に関わる重要なルールである。乱雑な線が数字に重なり、「1」なのか「7」なのか分からないようなことも起こるからである。

⑤ できた印、できなかった印を付ける。

教科書の練習問題などに取り組ませたときには必ず行う。できた問題とできなかった問題を明確にし、「できなかった問題のやり直し」をさせる。これらのことを一年間かけて繰り返し指導し、学習の仕方を身に付けさせていくのである。

2 『大きな数』CDで学ぶ向山型学習ルール

向山型学習ルールを書籍で学ぶには限界がある。語りや叱り方、褒め方などの口調がイメージできないからである。これらは「向山洋一算数授業CD・4年『大きな数』」CDで学べる。

書籍と音声の二刀流で黄金の三日間に備えることよい。

※1『教え方のプロ・向山洋一全集4』最初の三日で学級を組織する』（明治図書）を基に構成

※2体の各部位からの入力、大脳皮質の体性感覚野のどの部分に投射されているかを示したもの



（『大きな数』CDの購入先は東京教育技術研究所 <http://www.tiotoss.jp>）